スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座
スリーノート・パー・ストリング編vol.09

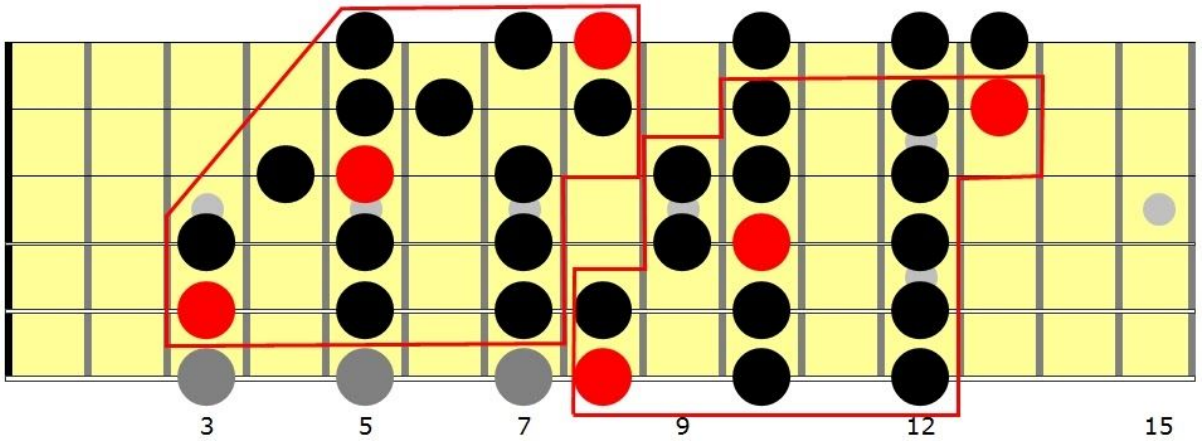
前回、チャーチモードのスケールの内、メジャー系である、アイオニアン、リディアン、ミクソリディアンの6弦トニックのポジションを見比べてみましたね。

構成的には、アイオニアン(メジャー)スケールを基準にすると、どちらも1音しか変わらないことがわかったかと思います。

それを踏まえた上で、今回は、5弦トニックのポジションの方でこれら3種のスケールを比べてみましょう。

ではまず、いつもの様にアイオニアンのポジション確認からですね。

図1、アイオニアンスケール、3nps、5&6弦トニックポジション



今回は左側の5弦トニックの方を基準に見ます。

次に、他2種類のスケールが、5弦トニックではどのようになっているかを確認してみましょう。

やはり構造としては、6弦トニックの時と同じように、それぞれアイオニアンに比べて1音変わっているだけになりますね。

図2、リディアンスケール、3nps、5弦トニックポジション

Copyright (C) shunichi onuma All Rights Reserved

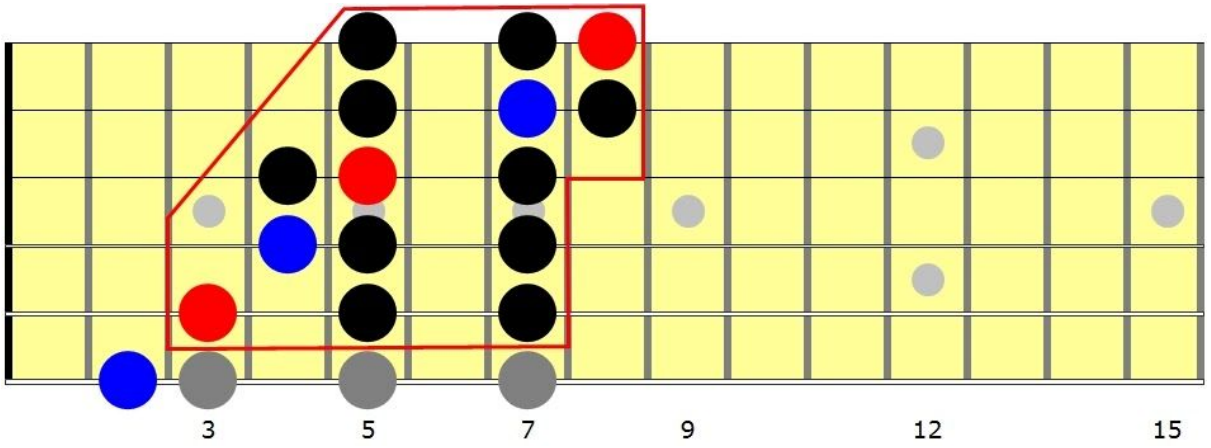
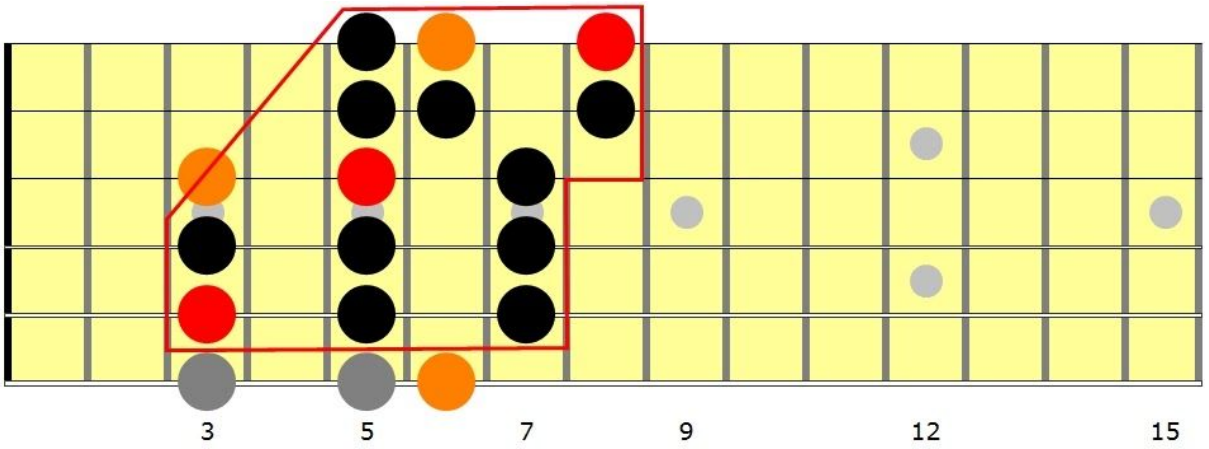
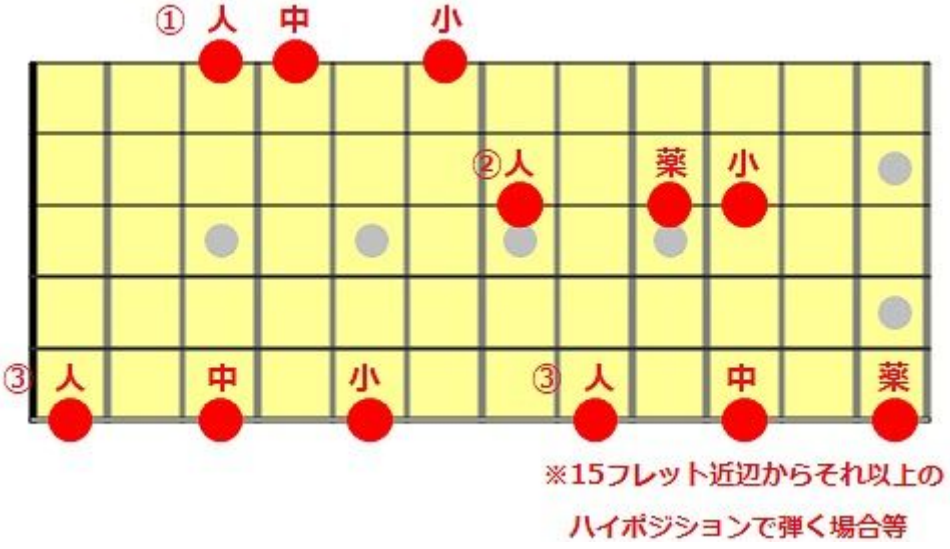


図3、ミクソリディアンスケール、3nps、5弦トニックポジション



これまで通り、今弾いている弦上では、以下の指使い図のどれになるのかを把握しながら弾いてみましょう。

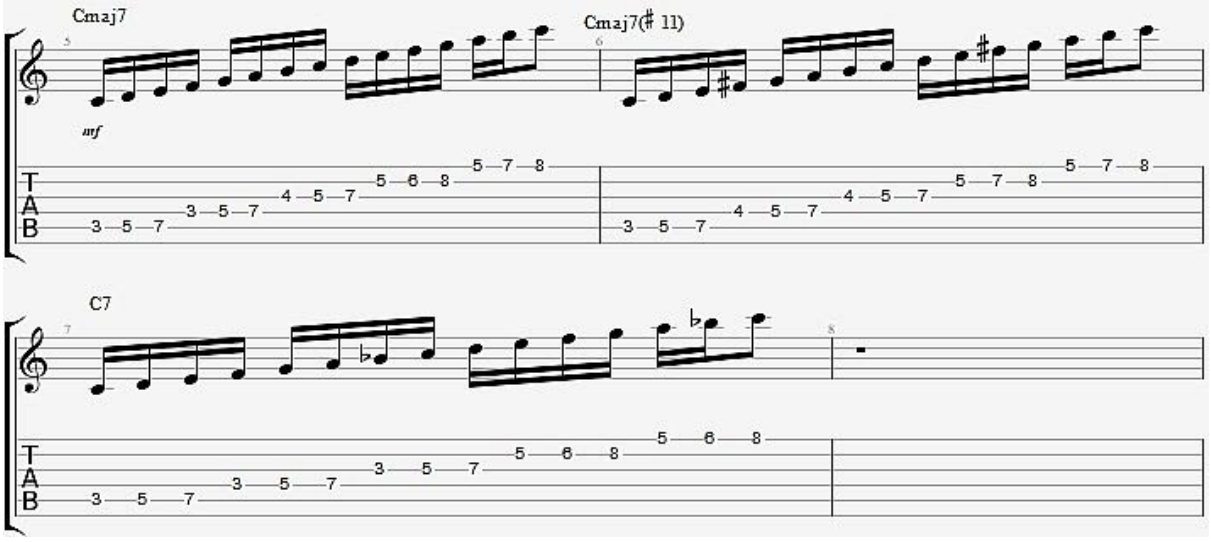


Copyright (C) shunichi onuma All Rights Reserved

これらも、一気に全弦を弾いて覚えてしまっても良いのですが、やはりこれまでの様に、1オクターブごとに分けると構造が把握しやすくなりますね。

把握の仕方はこれまでと同じですので、上記の図や以下の譜例を元に、一気に弾いてみたり、分割したりと色々と試してみましょう。

譜例1、チャーチモード、メジャー系3種のスケール比較、5弦トニックポジション



(※上昇＆下降)

後は、前回も載せましたが、インターバルの把握も超重要です。

・アイオニアンスケール
tonic、M2nd、M3rd、P4th、P5th、M6th、M7th

・リディアンスケール
tonic、M2nd、M3rd、♯4th、P5th、M6th、M7th

・ミクソリディアンスケール
tonic、M2nd、M3rd、P4th、P5th、M6th、m7th(♭7th)

(※色違いが図の変化に対応)

指板上での形(音の配置)を覚えたら、これらも確認してみましょう。
(※逆に、インターバルから音の配置を割り出してみるのも可)

最後に、これらを5弦トニックのポジションとして見た時に、6弦側の音まで覚えるかどうかについては、最初は自由で良いかと思います。

Copyright (C) shunichi onuma All Rights Reserved

構造だけを見れば、アイオニアンとリディアンは高い音からM7th、M6th、P5thの3音が並ぶので同じで、ミクソリディアンだけ、7度がm7th(黄丸)になっています。

後は、全体の形(音の配置そのもの)だけで見ると、

・アイオニアン5弦トニックのポジション+6弦の音
　＝ミクソリディアン6弦トニックのポジションと同じ形

・リディアン5弦トニックのポジション+6弦の音
　＝アイオニアン6弦トニックのポジションと同じ形

・ミクソリディアン5弦トニックのポジション+6弦の音
　＝ドリアン6弦トニックのポジションと同じ形

となっています。(※ドリアンスケールについては今後)

こんな感じで、各スケールの音の配置には一定の法則性がありますので、こういったことも見えてくると記憶の効率が上がりますね。

この講座は、学んだことが全て繋がるように作ってありますので、時々は過去のテキストも振り返ってみて、色々な観点からスケールを把握してみましょう。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) shunichi onuma All Rights Reserved